

**令和元年度進行管理・評価シート**  
**白河市歴史的風致維持向上計画（平成23年2月23日認定）**  
（最終変更令和2年3月24日）

**□進捗評価シート(様式1)**

①組織体制(様式1-1)		
1 歴史まちづくりの庁内連携・推進	.....	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 都市計画の活用	.....	2
2 景観計画の活用	.....	3
3 屋外広告物について	.....	4
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 小峰城跡本丸・二の丸石垣修復事業	.....	5
2 歴史的まちなみ修景事業	.....	6
3 歴史的風致形成建造物保存修景事業	.....	7
4 屋外広告物景観影響調査等事業	.....	8
5 無形民俗文化財活動記録作成事業	.....	9
6 しらかわ無形民俗文化財等支援事業	.....	10
7 伝統的技術伝承事業	.....	11
8 白河歴史教科書作成事業	.....	12
9 ぐるり白河文化遺産めぐり事業	.....	13
10 白河の歴史・文化再発見事業	.....	14
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の修理(整備を含む)	.....	15
2 文化財の保存・活用を行うための施設	.....	16
3 文化財の防災	.....	17
4 文化財の保存及び活用の普及・啓発	.....	18
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 小峰城歴史館、20日開館 ほか1件	.....	19
2 白河発展へ生徒提案 ほか1件	.....	20
3 「しらかわ検定」に挑戦	.....	21
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 歴史まちづくりニュースレターの発行	.....	22
2 白河市観光振興計画策定事業	.....	23

<b>□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)</b>	.....	24
--------------------------------	-------	----

評価軸①-1  
組織体制

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	

歴史まちづくりの庁内連携・推進

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容

平成22年度からまちづくり行政と文化財保護行政の一元的な展開を推進するため、建設部都市計画課内に「歴史まちづくり室」を設置、平成24年度には、建設部内に「都市政策室」を新設し、まちづくり(歴史まちづくり・景観・中心市街地活性化)、都市計画、文化財各部門の連携によるまちづくり推進体制を強化した。また、「庁内推進本部」を設置し、円滑かつ効果的な事業推進を図ることとした。さらには、「白河市歴史的風致維持向上計画協議会」をはじめ、都市計画審議会、景観審議会、文化財保護審議会などの協力や福島県など関係部局との調整を行い、計画の実現を図るものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史まちづくり事業の実施にあたっては、都市計画課及び文化財課との協力・連携のもと事業を実施した。白河市歴史的風致維持向上計画協議会、白河市歴史と伝統を活かしたまちづくり庁内推進本部会議及び調整会議を開催し、計画の推進や事業の実施について協議を行った。令和元年度は、第2期計画策定に向けて情報共有を図った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

歴史まちづくりの推進にあたって、地域創生や観光振興への効果が求められるようになってきていることから、計画に記載された歴史まちづくり事業に加え、歴史的資源の活用や観光交流人口の拡大等の課題への対応についても協議する。

状況を示す写真や資料等

- 歴史と伝統を活かしたまちづくり庁内推進本部
  - ・調整会議(令和2年1月22日開催)
  - ・庁内推進本部会議(令和2年1月23日開催)

○協議事項

- I 令和元年度計画の進捗について
  - ① 計画及び事業の進捗
  - ② 計画の変更(第9回)
  - ③ 歴史的風致形成建造物指定候補の追加
  - ④ 令和2年度事業
- II 第2期計画の策定について
  - ① 歴史的風致について
  - ② 第1期計画の概要
  - ③ 第2期計画策定の考え方



庁内推進本部会議(令和2年1月23日開催)

- 歴史的風致維持向上計画協議会  
令和2年2月14日開催

○協議事項

- I 令和元年度計画の進捗について
  - ① 計画及び事業の進捗
  - ② 計画の変更(第9回)
  - ③ 歴史的風致形成建造物指定候補の追加
  - ④ 令和2年度事業
- II 第2期計画の策定について
  - ① 歴史的風致について
  - ② 第1期計画の概要
  - ③ 第2期計画策定の考え方

## 評価軸②-1

## 重点区域における良好な景観を形成する施策

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
都市計画の活用		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	南湖公園区域内の一部について、歴史的風致にふさわしい用途の建築物等の整備を可能とするため、歴史的風致維持向上地区計画の策定を進める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
<p>歴まち法第31条に基づき、平成28年7月1日に「南湖湖畔店舗地区歴史的風致維持向上地区計画」を導入した。導入後、地区計画内では、既存店舗の改修工事や改築工事により、歴史的風致にふさわしい建築物の整備が行われた。</p> <p>○令和元年度整備件数:0件(平成29年度からの累計2件)</p>			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		南湖の歴史的風致を将来に渡り維持していくため、地区計画導入について広く周知を図るとともに、民間活力の積極的な活用による店舗群等の維持・向上により、行楽地としての賑わい創出を図る。	
状況を示す写真や資料等			
<p>○歴史的風致維持向上地区計画による取組状況</p> <p>日本の公園の先駆けとされる南湖公園の北側湖畔には、湖と一体となって南湖の歴史的風致を形成している店舗等が立地しているが、空き家となっていくことが懸念される。そこで、今後も南湖の歴史的風致を維持向上させていくため、歴史的風致維持向上地区計画を導入し、飲食店等を積極的に誘致する区域を設定した。</p> <p>区域内においては、建築物の用途を緩和するとともに、南湖の歴史性と調和した統一感のある建築物とするため、形態意匠等の制限を強化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用途緩和:建物の1階部分に、白河地域の農産品等を提供する飲食店等の立地を誘導</li> <li>・形態意匠等の制限強化:屋根は平入りの形状、開口部については木製格子戸などに制限</li> </ul>			

評価軸②-2

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
----	--------	----------------

景観計画の活用

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容

景観計画では、小峰城跡・白河駅周辺地区と南湖公園周辺地区について、景観計画重点区域に指定し、建築物等の形態意匠や色彩・高さなどについて景観形成基準を設けており、将来的には都市計画法の景観地区の指定を目指す方針である。また、城下町地区については、景観計画推進区域に指定し、建築物等の高さ等の景観形成基準を設け、景観協定の導入等、住民との協働によるルールづくりを積極的に進めることを目指す地区としている。  
 今後は、歴史的風致維持向上計画の重点区域と景観計画との整合を図るため、景観計画推進区域を当該重点区域まで拡大する方針である。

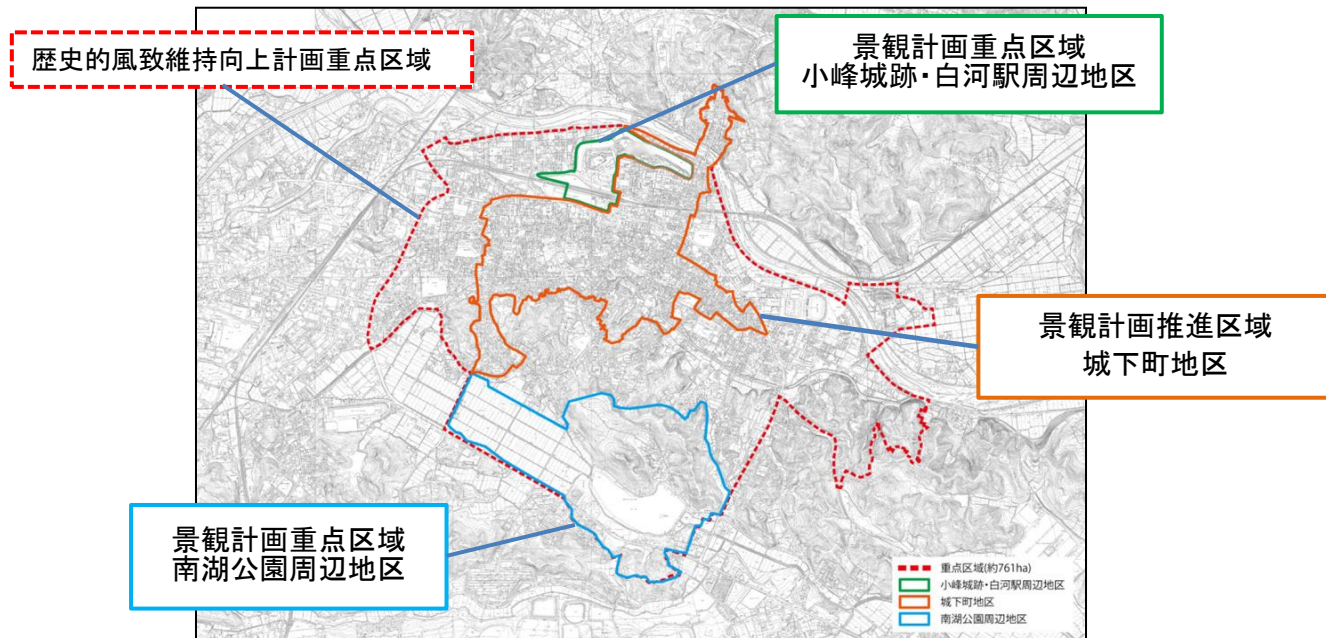
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

景観条例及び景観計画に基づき、建築物や工作物等の新築、増改築等の行為に関して適正な規制及び誘導を行い、景観計画区域内の良好な景観形成に努めた。令和元年度は、市内田町地区の景観まちづくり協議会が継続的に活動を行った。協議会3回と先進地視察を経た後、協定を締結した。

○令和元年度届出件数:30件(重点区域1件、推進区域1件、景観計画区域(重点・推進区域を除く)28件)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	田町景観まちづくり協議会が継続して活動を行い、協定を締結した。

状況を示す写真や資料等



【景観計画重点・推進区域図】

■令和元年度田町地区における協議経過

市内田町地区において、国道294号白河バイパス整備事業に併せ、住民による景観まちづくり活動を通して良好な景観形成を図ることを目的に景観まちづくり協議会が設立された。前年度から協議を続け、協定が締結された。

○田町景観まちづくり協議会

- 第4回 令和元年6月10日(月)
- 第5回 令和元年8月28日(木)
- 第6回 令和元年10月31日(木) 対象:田町自治会住民
- 先進地視察 令和元年7月21日(日)  
茨城県桜川市、栃木県宇都宮市
- 協定締結 令和2年2月20日(木)
- 協定認定 令和2年3月23日(月)



先進地視察の様子

評価軸②-3

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
----	--------	----------------

屋外広告物について

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容

屋外広告物については、屋外広告物法及び福島県屋外広告物条例に基づき無秩序な表示や設置を防ぐ美観・風致の維持、良好な景観形成等のため規制を行ってきたが、より本市の実情に即した屋外広告物の規制・誘導を図るため、平成28年4月1日から「白河市屋外広告物等に関する条例」を施行した。条例では、景観計画との整合性を図るため、景観計画重点区域等(重点区域、推進区域(城下町地区)、南湖から那須連峰への眺望に影響のある新白河駅周辺地区)において、屋外広告物の面積、位置、色彩等に市独自の許可基準を設けており、適切な規制・誘導を図っている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和元年度は、福島県屋外広告物連絡協議会に出席し、県及び市町村の担当者と様々な議題に対する意見交換を行った。さらに、屋外広告物適正化旬間(毎年9月1日～9月10日)に併せ、福島県屋外広告美術協同組合と協働し、白河市立図書館前において屋外広告美術展を開催し、屋外広告物法及び同法に基づく条例の普及啓発、違反屋外広告物に対する県民や企業の意識啓発を行った。

○令和元年度許可件数:187件(新規27件、更新150件、変更10件)

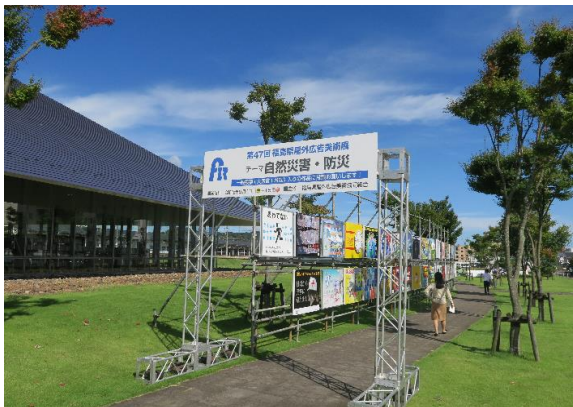
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	市条例施行に伴い不適格となっている屋外広告物について、経過措置期間内(令和4年3月31日)に解消を図るため、市補助金の活用推進を図る。

状況を示す写真や資料等

■令和元年度 福島県屋外広告物連絡協議会 概要

1. 開催日時 令和元年8月27日(火) 13:30～15:30
2. 開催場所 福島テルサ3階 あぶくま
3. 参集者 76名
4. 内容
  - 説明事項  
屋外広告物制度の概要について  
福島県屋外広告物条例施行規則の改正について  
福島県土木部都市計画課
  - 討議  
県や市町村から提案のあった様々な議題について、各自治体の現状や方針、課題などの意見交換を行った。

■令和元年度 屋外広告美術展の開催(令和元年9月14日～15日)



評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
小峰城跡本丸・二の丸石垣修復事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成23年度～

支援事業名 国宝重要文化財等保存整備費補助金

計画に記載している内容 平成23年度・平成24年度は、東日本大震災により崩落した石垣の記録化や石材の撤去作業を行いながら、崩落原因の究明と修復方法の検討を行った。平成25年度以降は、検証結果をもとに計画的に崩落・変形箇所の修復を行っていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

東日本大震災により崩落・変形した石垣のうち、復旧対象となった15か所については、平成30年度までに積み上げを終了した。石垣の修復にあたっては、伝統工法による技術研究も課題となっており、令和元年度は専門家で構成する石垣検討委員会を開催し、指導・助言を得ながら修復の検討を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後は、史跡整備にあわせて、近年、変形が顕著となった石垣の修復整備を実施する。

状況を示す写真や資料等



事業対象地



水懸口北面石垣解体状況(遠景)



水懸口北面石垣解体状況



水懸口上面発掘調査状況



石材カルテ作成状況



第33回石垣検討委員会(令和元年11月30日)

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
歴史的まちなみ修景事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成23年度～  
 支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業(平成29年度まで)、都市再生整備計画事業(平成30年度～))

計画に記載している内容 良好な町並み景観の保全を図るため、景観計画に基づき「景観形成ガイドライン」を策定し、これに基づく建造物の修景等に対する支援を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で  
 平成23年度に策定した「景観形成ガイドライン」に基づき、建造物の外観修景等に対する支援を実施した。  
 ○対象エリア:景観形成ガイドラインAゾーン(景観計画城下町地区重点推進区域)、金屋町谷津田川せせらぎ通り景観協定区域、白河城下景観まちづくり協定区域、白河門前通り景観まちづくり協定区域、横町景観まちづくり協定区域  
 ○令和元年度補助件数:4件(平成23年度からの累計29件)

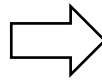
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	歴史的まちなみ修景事業のさらなる制度周知により、市補助金の活用推進を図る。

状況を示す写真や資料等

■遮へいのための造作(塀の設置)



施工前

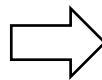


施工後

■建築物の新築(車庫)



施工前



施工後

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	

歴史的風致形成建造物保存修景事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
------------------	---	--

事業期間 平成23年度～

支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業(平成29年度まで)、都市再生整備計画事業(平成30年度～))

計画に記載している内容 旧奥州街道や歴史的街路の沿道に所在する歴史的な建造物について、歴史的風致形成建造物に指定し、所有者等が行う建造物の修理等に要する費用の一部を助成し、歴史的建造物の保全と活用を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史的風致形成建造物に指定した建造物の修理等に対する支援について、NPO法人しらかわ建築サポートセンター(歴史的風致維持向上支援法人)との連携により実施した。  
 ○令和元年度補助件数:3件5棟※うち2件4棟については繰越し(平成23年度からの累計31件56棟)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

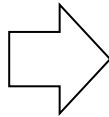
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	歴史的風致形成建造物の保存に対する所有者の理解が深まり、保存の気運は高まっている。今後は、街なか回遊のコンテンツとするなど、所有者や市民が建造物の価値を再認識できるような活用を検討していく。
--	---

状況を示す写真や資料等

■屋根・外壁等改修(大崎家住宅建造物)



施工前



施工後





評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	

無形民俗文化財活動記録作成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
-----------------	--	---

事業期間	平成23年度～
------	---------

支援事業名	市単独事業
-------	-------

計画に記載している内容	地域に根差した民俗・芸能活動は、住民の生活の一部を形作っていたものであることから、現状での活動内容について、詳細な調査を行い、活動記録の保存を行う。
-------------	--

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

民俗・芸能活動について、活動内容の詳細な調査を行うとともに、写真・映像による活動内容の記録も行った。  
 ○令和元年度記録件数:17団体(平成23年度からの累計164団体)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	夜間に行われる活動については、機器の精度の問題もあり、新たな記録化の方法を検討する必要がある。
--	---

状況を示す写真や資料等



関辺のさんじもさ踊り(白河地域)



中ノ沢権現梵天祭(表郷地域)



十日市提灯祭り(大信地域)



釜子納涼盆踊り(東地域)

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
しらかわ無形民俗文化財等支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成21年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 無形民俗文化財の保存団体等を対象に、必要に応じて学識経験者等の指導・助言を得ながら民俗芸能等に用いる用具類の新規購入や修繕、行事の実施公開に対して財政支援を行うとともに、本事業を周知し、支援団体の拡充を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

無形民俗文化財の保存団体の活動は、後継者不足等の理由により活動停止となる事例が増加しているため、申請に基づき調査を行い、道具等の補修・購入や活動の財政的支援を行った。

○令和元年度支援件数:14団体(平成23年度からの累計115団体)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	各団体の要望を把握した上で、より適切な支援となるよう努めたい。

状況を示す写真や資料等



芳賀須内の虫干神楽(白河地域)  
芳賀須内町内会:行事実施支援



八幡宮下熊野講(表郷地域)  
八幡宮下熊野講青年会:行事実施支援



下新城キウリ天王祭(大信地域)  
下新城町内会:行事実施支援



板倉の天道念仏(東地域)  
天道念仏太鼓保存会ほか:行事実施支援

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	

伝統的技術伝承事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
-----------	--	---

事業期間	平成24年度～
------	---------

支援事業名	歴史的風致維持向上推進等調査(平成24年度、平成25年度)、市単独事業(平成26年度～平成28年度)、歴史的風致維持向上支援法人単独事業(平成29年度～)
-------	---

計画に記載している内容	歴史的な建造物の修理等の際し、伝統工法に係る材料調達や職人不足の課題が浮き彫りとなったことから、地域の材料、地域の職人、地域固有の工法で修理する持続可能な修理システムを構築するため、モデル修理工事の実施や専門家を招いた研究会の開催等により、修理工法の開発や職人等の人材育成を図る。
-------------	--

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和元年度は、ヘリテージマネージャー育成講習会の一環として、整備事業を実施した歴史的風致維持向上施設を題材に現地研修を行い、文化財の修理や修繕に携わる人材育成に寄与した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	城下町に残る歴史的建造物の維持・保全には、建築の専門家の技術や助言が必要であることから、平成23年にしらかわ建築サポートセンターを歴史的風致維持向上支援法人に指定した。伝統的な技術の伝承が課題となっているため、同法人が主体となり、市内の建築士が伝統工法を習得するための事業を開催し、伝統工法を用いた歴史的建造物の維持・保全を図る。
--	---

状況を示す写真や資料等

○令和元年度 ヘリテージマネージャー育成講習会(現地研修)□

- 開催日時 令和元年11月9日(土)午前10時～午後4時
- 場 所 旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷／丹羽長重廟／旧小峰城太鼓櫓 等
- 講 師 NPOしらかわ建築サポートセンター理事 鈴木 節夫
- 参加者 18名

(研修の様子)



旧脇本陣柳屋旅館建造物群



小峰城跡

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
	項目	現在の状況

白河歴史教科書作成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
-------------	---

事業期間 平成24年度～

支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業(効果促進事業))(平成24年度、平成26年度)  
市単独事業(平成25年度～)

計画に記載している内容 白河の歴史と伝統に対する正しい理解と郷土愛の醸成を図るため、歴史の手引きの製作を行う。さらには、「(仮称)しらかわ検定」の開催を目指す。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

白河歴史の手引き「れきしら」入門編及び上級編を販売することで広く周知を図った。市内の小学校1年生から中学校3年生を対象に実施される「白河の歴史・文化再発見事業」では、「れきしら」を教材として活用し、白河の歴史と伝統に対する正しい理解と郷土愛の醸成を図った。また、「れきしら」のなかから問題を作成し、「しらかわ検定」を実施している。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	白河の歴史と伝統への興味を多くの人に持ってもらうため、白河歴史の手引き「れきしら」の活用や「しらかわ検定」の受験者数を増やすとともに、検定合格者の活躍の場を提供するなど、さらなる取り組みが必要となる。
--	--

状況を示す写真や資料等

【れきしら】



○ 販売実績

	令和元年度	累計
入門編	377	2,606
上級編	308	1,741

左:入門編(平成24年度作成)  
右:上級編(平成27年度作成)

【しらかわ検定】



告知ポスター  
(令和元年10月1日から掲示)



試験の様子  
(2級/令和2年1月25日実施)

日時:令和2年1月25日(土)  
3級 10:30~11:20  
2・1級 13:30~14:20

会場:東京第一ホテル新白河

目的及び実績:

本市の歴史に対する正しい理解と郷土愛の醸成を図るため実施。白河の歴史に興味のある小学生から80代の方まで、幅広い年代の方が受験した。市民だけでなく、市外、県外からの受験者もいた。

○ 受験実績

級	受験人数	出題範囲	合格基準
3級	71名	入門編	50問中 35問
2級	60名	上級編	〃 40問
1級	18名	入門編・上級編	〃 40問

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	
ぐるり白河文化遺産めぐり事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成21年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 地域の歴史的・文化的資源の価値を再認識する機会を創出するため、城下町ゾーンの寺社を中心に、あわせて歴史的・文化的資源をチェックポイントとするスタンプラリーを開催する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

まちなかの寺社など歴史的・文化的遺産を巡るスタンプラリーを年2回開催し、市内小中学生への参加を促した。また、スタンプラリー期間中に「ぐるり白河文化遺産ツアー」を開催した。令和元年度は、東日本大震災で崩落した石垣の修復が完了したことから、春秋を通して小峰城跡をコースに加えた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	参加者の固定化が見られるため、新規の参加者が増えるような内容が必要となる。また、歴史・伝統・文化に触れながら街なかを回遊する機会を提供という事業趣旨を踏まえたコース設定を検討することとする。

状況を示す写真や資料等

【スタンプラリー】

- 春:平成31年4月13日(土)～22日(月)  
景品交換者 91名(西・東コース各9箇所 どちらかのコースのスタンプを全て獲得)
- 秋:令和元年10月19日(土)～28日(日)  
景品交換者 17名(西・東コース各9箇所 どちらかのコースのスタンプを全て獲得)

【春のぐるり白河文化遺産ツアー】

- テーマ:「古地図で巡る城下町」
- 開催日:平成31年4月13日(土)
- 参加者:41名



古地図を手にガイドの解説を聴く参加者

○はじめでの参加者の割合(令和元年度)

	はじめて	リピーター	合計
春	21名(51%)	20名(49%)	41名
秋	5名(19%)	22名(81%)	27名

※秋は中止となったため、申込者で集計

【秋のぐるり白河文化遺産ツアー】

- テーマ:「初代藩主丹羽長重を偲ぶ  
～小峰城石垣修復の軌跡～」
- 開催予定日:令和元年10月19日(土)
- 申込者:27名 ※台風19号の影響により中止



募集案内チラシ

項目		評価対象年度	令和元年度 現在の状況
白河の歴史・文化再発見事業			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	平成25年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	白河の歴史や文化について知識や見聞を広め、興味を喚起するとともに、自分の生まれ育った白河を愛する心を育てるため、市内の小学2年生から中学2年生を対象に、「白河歴史教科書」を活用しながら、白河の歴史や伝統文化について体験的な学習を系統的に行う。平成27年度からは、小学1年生から中学3年生まで対象を拡大して実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
小・中学校とも「白河歴史教科書『れきしら』」を教材に、白河の歴史や伝統文化について各学年ごとにテーマを設け、各種文化団体や市文化財課学芸員等の協力を得ながら学習した。学習成果を市立図書館に掲示したり、伝統芸能を発表したりするなど情報発信する活動に力を入れた。中学校では「しらかわ未来フォーラム」と連携し、白河の歴史や文化について市長とともに語る機会や本年度新たにオープンした小峰城歴史館を見学する学習機会を設けた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	学習内容の充実に伴い、年々協力団体・機関の負担が大きくなり、日程の調整が難しくなっている。また、取組の形骸化を防ぐためにも、各校の独自性を発揮したり、実施内容の精選・重点化等を図ったりしていくことが必要である。		
状況を示す写真や資料等			



小学3年生の古民家「鈴木家住居」見学  
(令和元年11月27日)



小学5年生の翠楽苑「茶道体験」  
(令和元年11月26日)



小学6年生の「小峰城」見学  
(令和元年6月12日)



教員研修「茶道体験」/教員対象の研修を実施し、児童生徒の指導に生かす  
(令和元年7月31日)

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	

文化財の修理(整備を含む)

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容 文化財の状況を常に把握した上で、法令に基づき適切な保存を図るとともに、計画的な修理・整備を行う。また、専門的な指導・助言を得ながら、文化財が持つ歴史的価値の保持に努める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

国指定史跡「小峰城跡」において、帯曲輪の開放に向けた園路整備に着手し、帯曲輪西部の施工を行った。専門家で構成する小峰城跡整備指導委員会を開催し、指導・助言を得ながら整備の検討を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	工事に際しては、遺構の保護に努め、必要に応じて適宜立会いを行う。

状況を示す写真や資料等



文庫櫓跡発掘調査状況



帯曲輪門北側石垣解体状況



帯曲輪門西側上面検出状況



第2回整備指導委員会(令和元年10月7日)



評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度 現在の状況
文化財の保存・活用を行うための施設		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 文化財の保存・活用を行うための施設として、歴史民俗資料館、小峰城歴史館(旧・白河集古苑)を設置しており、収蔵史資料の調査分析、保存及び公開を行っている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史民俗資料館では、白河の歴史と文化を通史的に学ぶことのできる展示を行っている。平成31年4月にリニューアルオープンした小峰城歴史館では、開館と小峰城石垣復旧とを記念した特別企画展「白河藩主七家二十一代」を開催した。特別企画展にあわせ、展示解説会や講演会などを実施した。また、両館とも定期的に展示替えを行い、歴史資料の公開・活用に努めた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	施設の老朽化が進行している歴史民俗資料館の改修等について検討していくとともに、小峰城歴史館については、市の文化財に関する情報発信の拠点として、引き続き効果的な事業を実施していく。

状況を示す写真や資料等

■歴史民俗資料館(白河市中田7-1)

展示内容	会期
平常展示 白河の歴史と文化	通年

■小峰城歴史館(白河市郭内1-73)

展示内容		会期
展示室1 (小峰城ガイダンス室)	展示室2・3	
小峰城ガイダンス展示 小峰城VRシアター	小峰城の歴代城主と美術	4月20日(土)~7月28日(日)
	史跡小峰城跡石垣修復完了・ 小峰城歴史館開館記念 特別企画展 「白河藩主七家二十一代」	8月10日(土)~10月14日(月祝)
	小峰城の歴代城主と美術	10月25日(金)~3月31日(火)

■来館者数  
(令和2年3月末現在)  
 ○歴史民俗資料館 1,661人  
 ○小峰城歴史館 25,842人



歴史民俗資料館展示「白河の歴史と文化」



学芸員による展示解説  
(特別企画展「白河藩主七家二十一代」)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	

文化財の防災	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
--------	---

計画に記載している内容  
 文化財防火デーに併せた火災防御訓練の実施や訓練への住民参加に積極的に取り組み、所有者のみならず周辺住民の文化財防災に関する意識向上を図る。また、盗難に対する施設内の設備の現状確認を実施し、盗難予防に対する意識付けを強化していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

文化財防火デーに併せ、国指定史跡小峰城跡(白河市郭内)において、火災防御訓練を実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	所有者や地域住民と連携して、さらなる防災体制の強化に努める。首里城やノートルダム大聖堂など貴重な文化財の火災による焼失が相次いでいることを受け、定期的な史跡パトロールの実施や所有者・地域住民への注意喚起を通じて、文化財の現状把握と防災意識の向上に努める。
--	---

状況を示す写真や資料等

○文化財火災防御訓練

- ・日 時 令和2年1月22日(水) 9時30分～10時30分
- ・場 所 国指定史跡小峰城跡
- ・訓練内容 通報訓練、放水訓練、梯上放水訓練、初期消火訓練
- ・参加者 白河消防署、白河市消防団、地元町内会、白河市



放水の様子

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和元年度
項目	現在の状況	

文化財の保存及び活用の普及・啓発

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容

文化財を広く市民へ公開し、文化財保護精神の普及・啓発を図るため、ホームページを通じて指定文化財を分かりやすく紹介するほか、文化財の誘導・説明板の設置を進める。また、出前講座や各団体の学習会等に積極的に講師派遣を行うなど、文化財に対する知識・理解の高揚に努める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

小峰城跡では、石垣修復現場の一般公開を行った。市内の小・中学校で実施している「白河の歴史 再発見！事業」において、小峰城跡災害復旧現場の見学および小峰城歴史館の展示解説を行うとともに、出前講座に文化財課職員を講師として派遣し、文化財の普及・啓発に努めた。昨年度に引き続き、「歴史民俗資料館 美術・古文書講座」を開催し、文化財・歴史資料一般や、白河の歴史・文化について学ぶ機会を設けた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

石垣修復現場の公開については、今後も修復の進捗に応じて機会を設けていく必要がある。

状況を示す写真や資料等

○修復を終えた小峰城跡石垣の一般公開

- ・「小峰城さくらまつり」において東日本大震災で崩落した小峰城跡石垣の修復完了を宣言し、石垣修復を終えた帯曲輪跡の一般公開を行った(平成31年4月21日開催)。

参加者数 621人

○白河の歴史・文化再発見事業

- ・小峰城跡・小峰城歴史館見学者数
- 市内の15の小学校6年生を対象に公開を行った。

参加児童数 545人

・出前講座

- 市内の8の中学校1年生・2年生の授業において出前授業を行った。
- 開催内容 白河の古代(1年生)・松平定信の業績(2年生)

開催回数 のべ15回

参加生徒数 956人

○歴史民俗資料館「美術・古文書講座」

- ・令和元年12月～2年2月の期間中に計15回開講
- ・受講者数 60人



小峰城帯曲輪跡一般公開  
(平成31年4月21日)



白河の歴史・文化再発見事業  
「修復を終えた小峰城跡石垣の見学」  
(令和元年6月13日 表郷小学校 6年生)



歴史民俗資料館「美術・古文書講座」  
(令和元年12月18日 古文書講座)



報道等タイトル	年月日	掲載紙等
白河発展へ生徒提案	令和元年9月10日	福島民友新聞
地域の景観考える 白河一小生が市街地散策	令和元年9月19日	福島民友新聞

評価対象年度

令和元年度

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



未来フォーラム 市長と意見交換

白河市の鈴木和夫市長と中学生が同市の将来などについて意見を交わす「市長と語る『しらかわ未来フォーラム』」は6日、同市の五箇、表郷の両中学校で開かれた。

生徒が市発展に向け考えた取り組みなどを鈴木市長に提案した。

フォーラムは、18歳選挙権導入などで主権者教育の重要性が増す中、中学生の市政への関心を高め、市の現状や未来について市長と中学生が直接懇談する取り組み。今年で4度目の開催と好評した。

発表後に鈴木市長が「五箇には素晴らしい歴史と文化があったことを次の世代につないでいくことが大切。誇りを持って生活してほしい。皆さんの提案が将来的に必要なものになる」と講評した。

# 白河発展へ生徒提案

白河の歴史・文化再発見事業と連携した未来フォーラム (令和元年9月10日福島民友新聞掲載)



来月、授業参観でレポート発表

白河市は19日、同市の市立図書館などで景観学習事業を行った。白河一小の児童らが市街地を散策するなどして地域の景観について考えた。

児童の景観に対する関心を高め、良好な景観形成への意識を育むことが目的。今年3年目で、同校の6年生約60人が参加した。

日大工学部専任講師の市岡綾子さんによる景観に関する講義が行われた後、同校の学生らと市立白河駅前から市街地を歩行し、同市の丹羽長重廟までのルートを散策。児童らは写真を撮影したり、景観から感じたことをメモを取ったりした。

# 地域の景観考える

## 白河一小生が市街地散策

景観学習教室 (令和元年9月19日福島民友新聞掲載)

今後、散策を基にレポートを作成し、10月5日の授業参観で景観学習の成果を発表する予定。

評価軸⑤-3  
効果・影響等に関する報道

		評価対象年度	令和元年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等	

「しらかわ検定」に挑戦	令和2年1月28日	福島民報新聞	

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	
---	--

状況を示す写真や資料等



白河歴史教科書作成事業「第4回しらかわ検定」  
(福島民報令和2年1月28日掲載)

評価軸⑥-1  
その他(効果等)

評価対象年度 令和元年度

項目

歴史まちづくりニュースレターの発行

計画に記載している内容 整備を行った歴史的風致維持向上施設については、その施設が持つ価値を向上させるために、積極的に公開・活用を行う。また、これらの資源の価値を周知する機会を創出し、歴史的風致の維持・向上に努める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

歴史まちづくり計画の意義とこれまでの取り組み事例を市民に報告するため、ニュースレター(A3、二つ折り、カラー)を作成し、全戸約19,500戸に配布するとともに、関係機関の窓口等に約1,000部を配置した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり  
■計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

**歴史を感じる街歩きスポット**  
 (旧藤本陣跡 歴史的建造物・建造物)  
 旧藤本陣跡は、天保14年(1843年)に建てられた、市を代表する歴史的建造物です。  
 老朽化や日本大震災の影響による損傷のため、平成27～29年度修繕工事を実施しました。工事では、可能な限り既存の柱や梁、瓦葺き等を再利用し、伝統的な工法により行われました。現在は、明治の風情を感じる重厚な建造物として一般公開されています。

区分	延床面積(㎡)	延床面積(㎡)
敷地	300	380
敷地2	320	380
延床面積(延床面積合計)	380	430
全 延 床 面 積 合 計	680	810
京 房 面 積	410	490
京房面積(京房面積合計)	880	1,090
京房面積(京房面積合計)	880	1,090
京房面積(京房面積合計)	880	1,090

**さらなる「歴史まちづくり」に向けて**  
 これまで市では、地域に根ざした歴史・文化的資源を見つめ直し、それらを活用した白河らしいまちづくりを進めてきました。  
 平成23年に国の認定を受けた歴史まちづくり計画(第1期)では、旧藤本陣跡歴史的建造物をはじめ、小幡陣や歴史的風致形成建造物の保存等、まちなか歴史資源の整備が進みました。  
 地域固有の歴史的風致は一度失われると回復が困難であり、歴史まちづくりは継続して実施することが重要で、

第1期の計画期間が令和2年度で終了することから、第2期計画を策定します。  
 引き続き、市民の皆様が白河に誇りと愛着を持ち、「歴史・伝統・文化」が日常に息づく歴史まちづくりに取り組みたいと考えています。

**保護** 歴史的資源を守り育て、継承させる。  
**活用** 歴史的資源が人々の暮らしの中で活用される。

令和2年3月発行  
 白河市建設部まちづくり推進課  
 〒961-0418 福島県白河市宮山字長者久保2  
 電話 0248-22-1111(代表)

**白河市の維持向上すべき歴史的風致**

歴史と伝統を継承した人々の活動  
 歴史的建造物  
 良好な市街地の環境  
 周辺の市街地

「白河の歴史まちづくり」の取り組み

1. 白河市固有の歴史的・文化的資源を調査・整理し、継承していくことに基づき、歴史的・文化的資源の調査・整理、文化財や歴史的・文化的資源の調査、まちなか歴史資源、良好な市街地の環境の維持・向上を推進してまいりました。  
 白河の歴史まちづくりの取り組みは、白河の歴史まちづくりの取り組みを推進してまいりました。

2. 小幡陣跡門前整備事業  
 遺構は、市街地に残された歴史的建造物として重要であることから、石段を撤去し、石段の撤去を行いました。また、石段の撤去に伴って発生した土砂の処理も完了しました。  
 白河の歴史まちづくりの取り組みは、白河の歴史まちづくりの取り組みを推進してまいりました。

**歴史的風致の維持及び向上のための事業**  
 (平成23年度～令和2年度)

白河市固有の歴史的・文化的資源を調査・整理し、継承していくことに基づき、歴史的・文化的資源の調査・整理、文化財や歴史的・文化的資源の調査、まちなか歴史資源、良好な市街地の環境の維持・向上を推進してまいりました。  
 白河の歴史まちづくりの取り組みは、白河の歴史まちづくりの取り組みを推進してまいりました。

1. 白河市固有の歴史的・文化的資源を調査・整理し、継承していくことに基づき、歴史的・文化的資源の調査・整理、文化財や歴史的・文化的資源の調査、まちなか歴史資源、良好な市街地の環境の維持・向上を推進してまいりました。  
 白河の歴史まちづくりの取り組みは、白河の歴史まちづくりの取り組みを推進してまいりました。

12. 内堀公園周辺工事事業  
 13. 小幡陣跡公園周辺整備事業  
 14. 小幡陣跡公園周辺整備事業  
 15. 小幡陣跡公園周辺整備事業  
 16. 小幡陣跡公園周辺整備事業  
 17. 小幡陣跡公園周辺整備事業  
 18. 小幡陣跡公園周辺整備事業  
 19. 小幡陣跡公園周辺整備事業  
 20. 白河歴史資料館作成事業

「歴史まちづくりニュースレター VOL.2」

	評価対象年度	令和元年度
--	--------	-------

項目
白河市観光振興計画策定事業

計画に記載している内容	歴史的建造物の所在する町並みや文化財を繋ぐ回遊性の向上を図り、地域の歴史的・文化的資源の価値を知ってもらう機会の創出に努める。
-------------	---

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

観光資源の魅力や課題について、平成30年度に実施した「白河市における観光ニーズに関する現況調査」(歴史的風致活用国際観光支援事業)の結果を分析し、観光のテーマや今後の方向性、目指すべき将来像を定めるため、白河市観光振興計画策定会議を設置し、白河市観光振興計画を策定した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	
---	--

状況を示す写真や資料等

■ 白河市観光振興計画策定会議開催実績

- 令和元年8月21日                      第1回    観光振興計画の策定について、基礎調査実施結果報告の説明
- 令和元年10月4日                    第2回    白河市にとっての観光とは(ワークショップ)
- 令和元年11月8日                    第3回    ターゲットを呼び込むために必要なこと(ワークショップ)
- 令和元年12月18日                   第4回    観光振興計画の施策体系の整理、取組の検討
- 令和2年2月21日～3月19日        パブリックコメント実施
- 令和2年3月                            白河市観光振興計画策定



第2回会議の様子



令和2年3月策定



評価対象年度	令和元年度
<p>・法定協議会等におけるコメント</p>	
<p>コメントが出された会議等の名称: 白河市歴史的風致維持向上計画協議会</p>	
<p>会議等の開催日時: 令和2年2月14日</p>	
<p>(コメントの概要)</p> <p>歴史まちづくりの庁内連携・推進(p1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流人口の拡大等の課題について、庁内でどのような議論がされているのか。</li> </ul> <p>都市計画の活用(p2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区計画の導入の効果として、南湖湖畔に賑わいがみられる。</li> </ul> <p>景観計画の活用(p3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南湖公園周辺地区は国道294号白河バイパスが開通すれば人の流れがさらによくなる。景観にはどのような配慮をしているのか。</li> <li>・国道294号白河バイパスが開通することで景色が一変するだろうが、その裏で商店街の維持発展が失われていく。それはやむを得ないことなのか。</li> </ul> <p>小峰城跡本丸・二の丸石垣修復事業(p5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石垣修復後の整備についてはどのようにするのか。</li> </ul> <p>歴史的風致形成建造物保存修景事業(p7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定建造物は市民共通の景観財産である。</li> <li>・多くの蔵を見ることができ、歴史まちづくりの効果を実感した。</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財、歴史的建造物を保全するため自然災害に対処することが重要である。</li> <li>・交流人口の増加を目指すため、市内に滞留・宿泊できるような事業が必要になる。</li> <li>・整備した歴史的な施設を管理・運営していく母体となる担い手組織の育成が必要になる。</li> <li>・歴史的資源を点と点から回遊するための環境整備が必要である。</li> <li>・小峰城跡全体を考えた修景整備も検討が必要になる。</li> </ul>	
<p>(今後の対応方針)</p> <p>歴史まちづくりの庁内連携・推進(p1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行計画で整備した歴史的な資源を有効活用していくため、第2期計画では観光施策との連携が重要になると確認した。具体的な事業検討は今後、検討を進めていく。</li> </ul> <p>景観計画の活用(p3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路としての役割と城下町の景観への配慮をしていく。</li> <li>・景観計画や景観条例により、どのような景観にしたいのかという一定の基準を示し、行政のみではなく、住民が自ら景観形成に関与するようにしていく。</li> <li>・旧奥州街道の面影を残すような一定のルールのもと景観に配慮する方向で協議していく。</li> </ul> <p>小峰城跡本丸・二の丸石垣修復事業(p5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石垣のダイナミックさを見ることができ最適な場所として整備をする。</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行計画で整備した拠点の活用の充実を図る。</li> <li>・現行計画期間で実現可能なことと第2期計画に引き継ぐべきことを検討、協議していく。</li> </ul>	